

日本オペラ協会創立 **60** 周年記念公演 日本オペラシリーズ No. 79

あの名作が、時を超えてついに再演!!
力強くも美しい日本オペラの原点がここに――

静と義経

SHIZUKA AND YOSHITSUNE

なかにし礼 作・台本

三木 稔 作曲

総監督 郡 愛子 Aiko KORI
監修 なかにし礼 Rei NAKANISHI

オペラ全3幕
ニュープロダクション

指揮 田中祐子 YUKO TANAKA
演出 馬場紀雄 NORIO BABA

静 坂口裕子 YUKO SAKAGUCHI 沢崎恵美 Megumi SAWAZAKI

義経 中井亮二 RYUICHI NAKAI 中鉢 聡 SORACHI CHIBACHI

頼朝 森口賢二 KENJI MORIKUCHI 清水良一 RYUICHI SHIMIZU

弁慶 泉 良平 RYUICHI IZUMI 豊嶋祐壹 YUICHI TOYOSHIMA

磯の禪師 向野由美子 YUMIKO KONNO 上田由紀子 YUKIKO UEDA

政子 家田紀子 NORIKO IEDA 東城弥恵 YOE TOHO

大姫 楠野麻衣 MAI KUSUNO 鈴木美也子 MIYUKO SUZUKI

梶原景時 持木 弘 HIROKI MOCHIKI 角田和弘 KAZUHIRO TSUKUDA

和田義盛 松浦 健 NORIKO MATSUURA 納谷善郎 NAHAYA NAVA

大江広元 三浦克次 KAZUICHI MIYURA 中村 靖 YOSUKE NAKAMURA

佐藤忠信 江原 実 MIYOSHI HARA 和下田大典 DAICHA WAGETA

伊勢三郎 川久保博史 HIROSHI KAWAKUBO 井出 司 TSUKENOBU IDE

片岡経春 下瀬太郎 TORO SHIMOSE 井上白葉 HOKUYO INOUE

安達清経 鳴海優二 YUICHI NARUMI 塚田堂琉 TERA TSUKAYADA

堀ノ藤次 立花敏弘 TOSHIO TACHIBANA 岡山 肇 HIROHISA OKAYAMA

藤次の妻 きのしたひろこ 二渡加津子 HIROKO KINOSHITA KATSUKO FURUYANAI

白拍子 稲葉美保子 小林未奈子 白神晴代 NAHANE MIHO KOBAYASHI MINAKO SHIRAKAMI HARUYO

中川悠子 中ノ森怜佳 古澤真紀子 NAKAGAWA YUKO NAKANO MORIKO KOSAKI MAKIKO

増田 司 松山美帆 TSUKEDA SHI MATSUYAMA MIHO

合唱: 日本オペラ協会合唱団

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団

3/2 SAT

3/3 SUN

2019年3月2日(土)・3日(日) 14:00

新宿文化センター大ホール

開場 13:00 *各日とも13:15から
作品解説をいたします。
上演時間: 約3時間

S¥12,000 A¥10,000 B¥8,000 C¥5,000 D¥2,500 (税込)

■青春割引チケット: ¥2,000 (25歳以下/枚数限定/席種・席番はご指定いただけません) *特別割引につきましては、日本オペラ振興会
チケットセンターへのお電話のみで取り扱い。詳細はお問い合わせください。

■障がい者割引: S・A・B席が20%割引 (要お問合せ/枚数限定)



好評発売中!!

●お問い合わせ・予約 ▶ 日本オペラ振興会チケットセンター 03-6721-0874(平日10:00~18:00) <https://www.jof.or.jp>

●チケット販売所 ▶ チケットぴあ <http://t.pia.jp/> 0570-02-9999(Pコード:125-398)

イープラス <http://eplus.co.jp>
新宿文化センター(窓口のみ) 03-3350-1141(9:00~19:00/休館日を除く)

■主催: 公益財団法人日本オペラ振興会 / 公益社団法人日本演奏連盟 ■共催: 公益財団法人新宿未来創造財団
■助成: 公益財団法人五島記念文化財団 / 公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団



オペラ「静と義経」(作・台本 なかにし礼 / 作曲・三木稔)は、1993年鎌倉芸術館の開館記念委嘱作品として製作されました。同年、作者であるなかにし礼氏本人の演出により初演され、著名な歌手陣が多数出演し、絢爛豪華なステージとして大成功を収めました。武士が権力を握った時代を象徴する歴史上の数々の登場人物に加え、様式美も感じさせるドラマティックな音楽により、壮麗なグラントオペラとして仕上げられたこの作品は、ジャパントイムズをはじめとして各種音楽評でも絶賛されました。「日本の音楽劇で、この終幕のアリアの本当に純粋な美しさと比較できるものはかつてなく、西洋のレパートリーの中で較べられ得るアリアもごく僅か、大作といえよう。「静と義経」はオペラのあるべき全て、すなわち、悲劇的で、華々しく、感銘的で、永遠性があり、そしてポピュラー性さえ備えた愛へのオマージュである(ジャパントイムズより)

昨年総監督に就任した郡愛子は初演で磯の禰師役に出演しており、日本オペラ協会創立60周年記念公演として本作品をもう一度上演したいという思いから、初演以来25年ぶりに舞台上演することとなりました。なかにし礼氏を監修に迎え、指揮には新進気鋭の女流指揮者である田中祐子起用する一方、柔軟でありながらも手堅い演出を手掛ける馬場紀雄、振付に尾上菊紫郎、出演者には坂口裕子、沢崎恵美、中井亮一、中鉢聡をはじめとして日本オペラ協会を支えてきた数多くの歌手を配し、60年間積み重ねてきた日本オペラ上演の集大成を目指します。どうぞご期待ください!

あらすじ

第一幕 雪の吉野山の逃避行。

義経一行に従う静御前は、足手まといと知りながら、愛する義経と別れるよりは死を願う。静が義経の子を宿していると告げると義経一行は喜びが、それならばなおのこと無事都へ戻って欲しい、と諭され、静は泣く泣く一人山を降りる決意を固める。静は、形見の初音の鼓と宝を授けられると、狂おしい思いで義経を追わぬよう、己が身を縛らせる。二行が去ると、案内人達が静を犯し、宝を奪って去っていく。静は天に向かって、辛くとも、悲しくとも、心の中に義経という神がいれば死にはしないと、泣き叫び、山路を歩き出す。

第二幕 翌春、鶴ヶ岡八幡宮。静は頼朝の御前で、見事な舞と歌を披露するが、頼朝はその歌の中に義経への想いを聴き取り、怒りを露にする。静が宿す義経の子に話が及べば、頼朝は子が男なら由比ヶ浜の海に沈めると沙汰をくだす。静の母、磯の禰師の祈りの声が響く。

第三幕 夏、堀の藤次の邸。静が生んだのは若君。すぐさま赤子は取り上げられる。静が死にゆく我が子に諭すが、「死ぬか待つか? 私は都には帰らない」と断る。その声に、藤次らの無常を嘆く歌が重なる。翌年、墓前。義経らが死んだとの報せを聞き、大姫は父頼朝への恐れを口にしますが、全ては北条の為と告げる母、政子の本当の姿を見て胸を掻きむしる。

頼朝邸。届けられた首櫃を前に、頼朝が悪は滅んだ、と告げると、臣下達が悪とは何か、と胸の内を語る。そこに政子が現れ、大姫の死を報せる。頼朝は娘のためとも義経のためともつかぬ涙を見せ、孤独地獄に堕ちる我が身を嘲う。政子の笑い声が響く。首櫃の前に現れた静と磯の禰師。都へ行くこうという磯の禰師の願いに、すでに死を想う静は応えず、禰師は去る。静は愛する人と子と共に暮らす、常春の世界に旅立つ思いを歌い上げると、胸に短剣を突き立て息絶えるが...

静と義経

SHIZUKA AND YOSHITSUNE

なかにし礼 作・台本
三木 稔 作曲



監修
なかにし礼



指揮
田中祐子



演出
馬場紀雄

スタッフ

- 振付: 尾上菊紫郎
- 合唱指揮: 河原哲也
- 美術: 鈴木俊朗
- 衣裳: 飯塚直子
- 照明: 奥畑康夫
- 舞台監督: 八木清市
- 副指揮: 高橋勇太
- 石崎真弥奈
- 演出助手: 橋詰陽子

3/3
SUN

3/2
SAT



豊嶋祐豊 清水良一 中鉢 聡 沢崎恵美 泉 良平 森口賢二 中井亮一 坂口裕子
中川悠子
角田和弘 鈴木美也子 東城弥恵 上田由紀子 持木 弘 楠野麻衣 冢田紀子 向野由美子
古澤真紀子
井出 司 和下田大典 中村 靖 納谷善郎 川久保博史 江原 実 三浦克次 松浦 健
増田 弓
二渡加津子 岡山 肇 塚田堂琉 井上白葉 きのしたひろこ 立花敏弘 鳴海優一 下瀬太郎
白拍子
稲葉美保子
小林未奈子
白神晴代
中ノ森裕佳
古澤真紀子
増田 弓
松山美帆

NPO法人日本音楽生涯学習振興協会は、藤原歌劇団・日本オペラ協会の本公演を応援しています!

日音協会では、地域住民のための生涯学習『童謡コーラス』『みんなの音楽会』の2つの支援事業を推進しています

TV『みんなの音楽会テレビ』毎週日曜朝(テレビ神奈川 10時00分/テレビ埼玉 10時15分)好評放送中!
—レギュラーコーナー「みんなのオペラ」では、日本オペラ振興会の公演や歌手をご紹介します。—